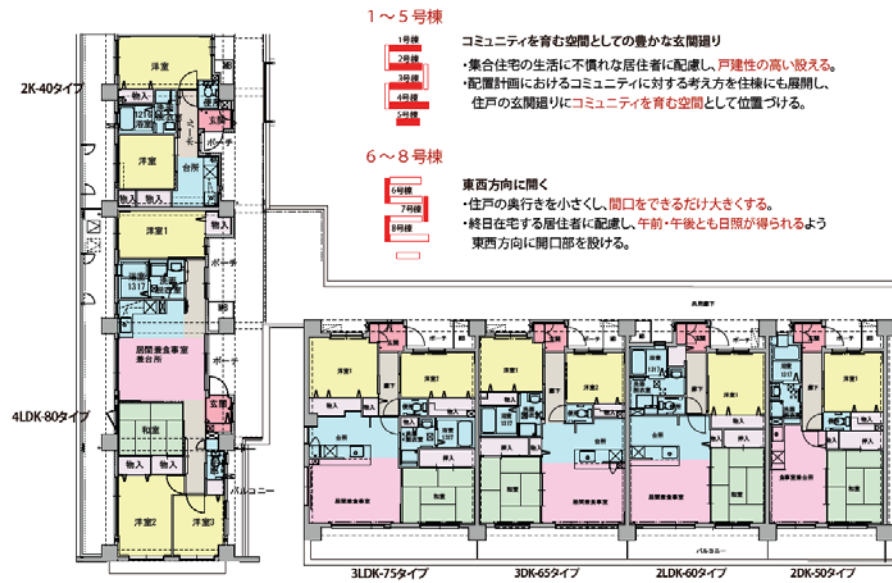


女川町町民陸上競技場跡地地区災害公営住宅設計コンセプト

○被災者の安心生活につながる、快適で良質な「戸建性」の高い住環境づくり

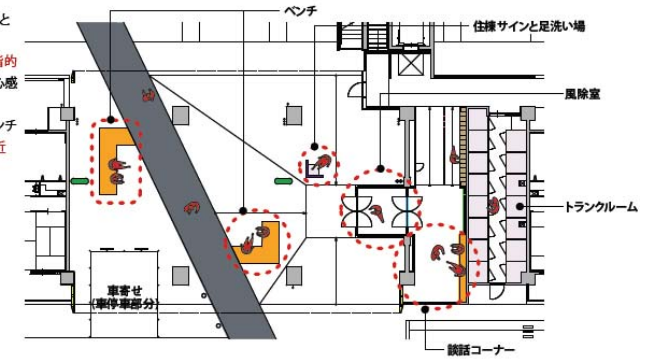
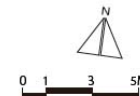


○地域コミュニティ拠点としての役割

○地域コミュニティ拠点としての役割 ～共用部～

通り土間と建物玄関

- みんなの道の上に位置し、みんなの庭と連続する半屋外の通り土間
- 通り土間、建物玄関、共用廊下と段階的にプライバシーを高めることで、安心感のある経路とする
- コミュニティ形成の場となるようベンチや溜り場を設け、居住者にとって身近な空間となるよう設える



集会室(4号棟1階)

- みんなの居間での日常性
- 座のコミュニティと椅子のコミュニティ
- 各々の集会室を移動間仕切とすることで一体的利用も可
- 石舞台(女川石の再利用)との連続でコミュニティの展開

コミュニティプラザ(6号棟1階)

- 団地の顔として町に開き、景観形成にも寄与する。
- オープンな設えて、年代を問わず誰もが親しめる施設とする。
- 多面開放及び、動線の団地内動線の始まりとしての立地を生かした計画とする。

○環境性能の高いエコ住宅

○環境性能の高いエコ住宅 ～太陽光発電とLED～

太陽光発電による電力供給

- 太陽光パネルによる発電電力を共用部へ供給することで環境負荷を低減する。
- 太陽光パネルによって発電した電気は、共用部の電源・蓄電に使用する。
- 蓄電した電力は一部の共用灯の点灯に使用し、停電時にも利用可能。

凡例

